

【キーワード】

〔施設種別〕 □高齢者施設 □障がい者施設 □子ども施設 □住宅（住宅型ホテル） ■図書館
 〔運営主体〕 ■市区町村 □法人 □NPO □個人
 〔建物形式〕 ■1棟単体型 □複数棟集合型 □団地型 □集落
 〔建物状況〕 □新築 □増築 □改修 □一部改修 □既存
 〔対象者〕 □高齢者 □障がい者 □子ども □ファミリー ■多世代



写真1 マッジョーレ広場側からのエントランス

1800年にいまの姿の原型ができた、古い証券取引場（Salaborsa）を改修して開設された市民のための図書館。多様な人々の居場所となるよう、空間づくりや運営に工夫や挑戦がなされている。市民にとって歴史的に政治や宗教を通した集まりの場であり、市のシンボルでもあるマッジョーレ広場に面して立地し、知と文化による人々の活動の拠点となっている。

視察日 2019年11月4日

記録担当者 斎尾直子, 加藤悠介

1. ボローニャの概要

ボローニャ Bologna は、エミリア＝ロマーニャ州ボローニャ県の州都かつ県都である。西欧諸国で最古の大学とされるボローニャ大学（1088年創立）があることで著名な学園都市で、国際的な学会等も多数開催される。長い歴史を持つ都市であり、ローマ時代にはエミリア街道沿いの主要な都市として繁栄と衰退を繰り返した。19世紀初頭まで大規模な都市再開発が実施されなかったため、現在に中世の建築や町並みが残る。ボローニャ市は周辺集落を含めて人口約37万人（2018年）を擁し、年間観光客数300万人以上という一大観光都市でもある。

2. サラボルサ図書館の概要

1) サラボルサ図書館の立地



写真2 図書館周辺

表1 サラボルサ図書館の階構成（文献1）より、2014年時点）

2019.11においてもほぼ同様の用途である。

階	面積 (m ²)	主な空間・機能
3階	1,189	Urban Center Bologna (都市計画・事業の展示空間、会議兼学習室)
2階	1,461	定期刊行物・雑誌の閲覧、学習スペース、 開架式書架・閲覧スペース、学習室
1階	4,000	受付カウンター、アトリウム、カフェ、 開架式書架・閲覧スペース、乳幼児・児童 向け図書スペース、PCスペース
地下1階	4,186	講堂、10代向け図書スペース、ローマ時代の 遺跡
地下2階	2,048	倉庫
計	12,884	



写真3 サラボルサ図書館の外の階段

エントランス前の階段にも人々が座ってくつろいでいる。

サラボルサ図書館は、ボローニャ市のなかで歴史的に政治と経済、文化、宗教の中心部であったマッジョーレ広場に面して立地している。また、図書館建物の南側には市庁舎として使われているアックルシオ宮殿が隣接している。ボローニャ市民にとって、この広場は市のシンボルであり、サラボルサ図書館の開館によって人々が文化的機能によって集うという学園都市ならではの拠点形成にも成功している。

2) 図書館の建物の特徴

<参考文献>

- 1) 小松尚, 小篠隆生: 公共空間としてのボローニャ市立「サラボルサ図書館」に関する考察; 日本建築学会計画系論文集 Vol.82, No.739, 2227-2237, 2017

図書館の建物は、1880年代におこなわれた増改築により現在の形になり、証券取引所、レストラン、銀行、

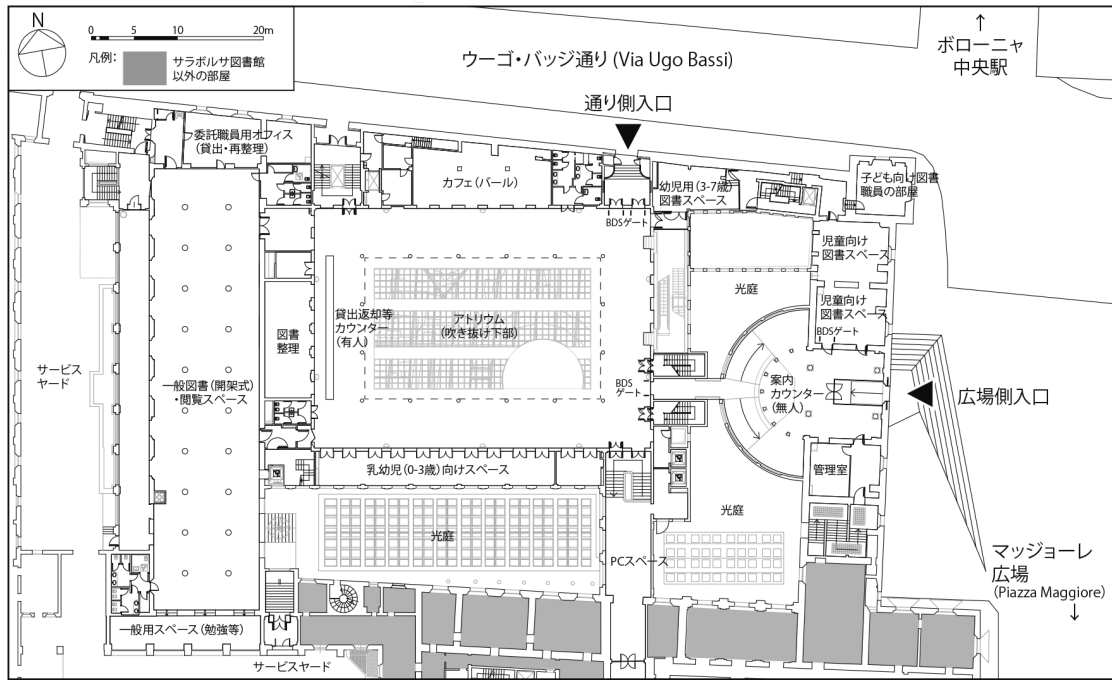


図2 サラボルサ図書館1階平面図

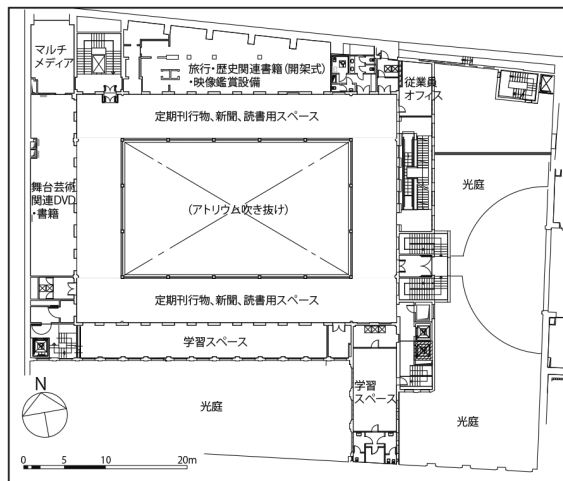


図3 サラボルサ図書館2階平面図

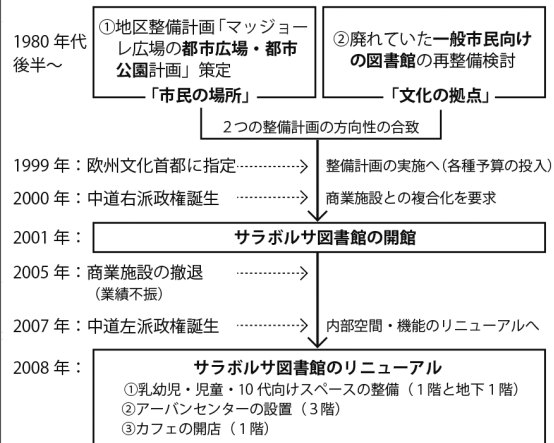


図4 サラボルサ図書館の整備経緯

図2～図4 サラボルサ図書館平面図(文献1)より

小劇場等に使用された。1980年代、図書館として「文化の拠点：廃れていた一般市民向けの図書館再整備検討」と「市民の場所：地区整備計画“マッジョーレ広場周辺都市公園整備”策定」、2つの整備計画の方向性が合致し、屋根のない広場であるマッジョーレ広場に対して、屋根のある広場として、2001年にマルティメディアや無料のインターネット端末を備えた図書館が整備され、開館した(表1, 図2~4)。「サラボルサ Salaborsa」はイタリア語で証券取引所の意味であり、現図書館の愛称にもなっている。

図書館として建物を修理する際に、その地下に、ローマ時代の遺跡が発見された(写真7)。この遺跡は部分的に保存・修復されて見学ができるように見学路が整備され、発掘調査の資料が展示されている(写真8-10)。さらにそれが図書館からも見えるように、エントランスホールを兼ねるアトリウムは床がガラス張りとなされ、足もとに都市の歴史を見ることが出来る。また、地下展示室へのアプローチ空間には、ローマ時代から現在にいたるまで、サラボルサ図書館のある地区や建物が都市の中でどのような機能を担ってきたのかを紹介したパネル展示がある。

マッジョーレ広場から、入り口カウンターを通り半階ほどゆるやかに下るスロープを抜けると3層吹抜けのアトリウムに出る(写真11, 12)。アトリウム中央からは、1~3層の様々なスペースを360度、見渡すことができる(写真13)。2~3階のテラス部分は、机や椅子、ソファ、PC、コピー機などが設えられたブラウジングコーナーとして使用されている(写真14~15)。アトリウムは、図書そのものではなく、人々が本を読んだり、勉強をしたりして過ごす様子が見える空間である。

1階アトリウム奥(東側)には貸出・返却等のカウンター(写真16)、一般閲覧室(写真17)、各種イベントが開かれる講堂(写真18)、こどもの本のゾーン(写真19-21)、乳幼児スペース、カフェ、と多様な場所がある。また、3階テラス部分にはボローニャ大学のスタジオなどがある(写真22)。以前はこのブース群の前の部屋に、アーバンデザインセンターが入っていたが、その役割が大きくなったために隣の建物に移転し、現在は空き室となっている。



写真7 地下のローマ時代の遺跡



写真8 サラボルサ図書館の建物の歴史展示

地下の遺跡に続く廊下では、サラボルサ図書館があった場所や建物の歴史が年代ごとに展示されている。



写真9 証券取引所時代の写真(階段踊り場の展示を撮影)

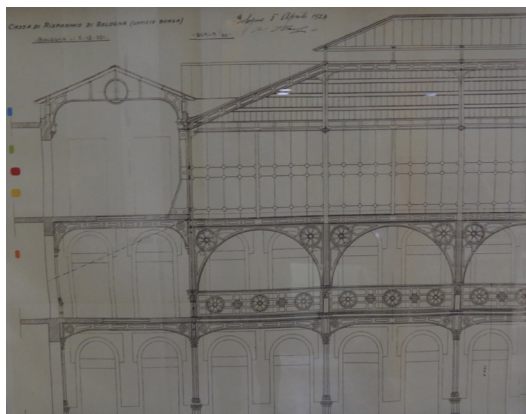


写真10 断面図(階段踊り場の展示を撮影)



写真 11 エントランスカウンター

左右のスロープをカウンター裏側に向かって下ると、アトリウムホールに出る



写真 12 アトリウムホールの展示と、ガラス張りの床

床の下にはローマ時代の遺跡がある。アトリウムホールには、テーマに沿って展示が行われている。



写真 13 3層吹き抜けのアトリウムホール

3層に重層したテラスでの人々の様々な振るまいを見渡すことができる。



写真 14 テラス部分のブラウジングコーナー



写真 15 テラス部分の、PCのある読書・学習スペース

3) 図書館の運営

開館から20年弱が過ぎ、いま図書館には1日約4,000人が訪れるという。また、図書館に関する全国規模の統計が存在しないイタリアにあつて、サラボルサ図書館は目録や利用状況等の詳細な統計を取っている数少ない公共図書館である。

2008年のリニューアルでは、学術目的で利用する人だけではなく、一般人にも敷居が高くない、より魅力的な場所となることが目指された。このコンセプトの元、誰でも多様な層が無料でも過ごすことができるよう、従来の自治体が主体の公共図書館とは一線を画したサービスや活動プログラムを提供している。多様な層がそれぞれの興味や居場所を見つけられるよう、乳幼児・児童・10代向けスペース整備、アーバンセンター、カフェ等の機能が加わり得られた。そして、いわゆる児童館のような場や、都市計画・まちづくりの活動の場、大学のサテライト、多世代が気軽に過ごせる場等が展開している。

アントネッラ・アンニョリ氏へのインタビューで詳細を確認できるが(→p.46)、多様な市民層の居場所となるということは、貧しい人やホームレスの人など社会的な助けを必要とする人々を受け入れるということでもある。このため、そうした知や文化を通したソーシャルな支援や支援につなぐための結節点となる、公共施設の現代的な意義を問い直す「新しい図書館」のあり方が模索される必要があつた。

サラボルサ図書館は、都市の歴史的故事の中心にあつて、歴史的建築を活用しながら、物理的な空間整備と共に、これまでの図書館司書スタッフでは難しかった多様な市民向けプログラムが展開する場である。



写真16 インフォメーションデスク



写真17 一般閲覧室



写真18 講堂



写真19-21 家具や書棚がユニークな児童スペース、レコード視聴コーナー



写真 22 3階テラスのミーティングブース
ボローニャ大学の講義が行われることもある。小規模な市民講座などの場としても使われる。



写真 23, 24 : ボローニャ大学のポルティコ空間

- 2) 小篠隆生, 小松尚: 「地区の家」と「屋根のある広場」イタリア発・公共建築のつくりかた; 鹿島出版会 2018
- 3) ボローニャ大学, <<https://www.unibo.it/en/university/who-we-are/our-history/the-numbers-of-history>>
- 4) Bibliotheca Salaborsa, <<https://www.bibliotecasalaborsa.it/>>

3. ボローニャ大学とサラボルサ図書館

大学の原点にして、ヨーロッパ最古の大学といわれるボローニャ大学の本部は、サラボルサ図書館から徒歩5分の立地である。

ボローニャ大学は1088年設立とされ、中世都市としてのボローニャの発展とともにその歴史を刻んできた。街中に張り巡らされたポルティコのネットワークが、街中に点在する講義室群を結び、時にはそれ自体が講義室となったと伝えられている。今回の訪問時もザンボーニ通り沿いのポルティコは、講義室から出てきた学生たちのコミュニケーションの場となっていた(写真23, 24)。

2008年にオープンしたサラボルサ図書館3階のアーバンセンターは、その設立と運営にボローニャ大学が主体的に参画している。現在は組織形態がファンデーションになり、活動規模が大きくなったことから、サラボルサ図書館の隣の建物に移動した。講義室を出たポルティコの街路空間だけではなく、まちの中心に位置する図書館も含めて、ボローニャではまち全体が大学キャンパスとなっている(写真25)。



写真 25 : ボローニャ大学の周辺
大学の建物群はまちに溶け込んでいる。